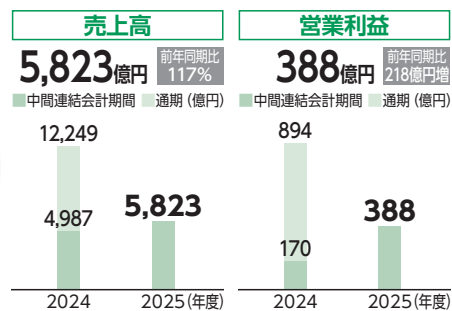
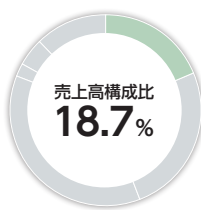


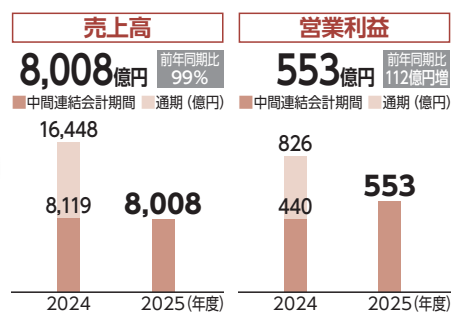
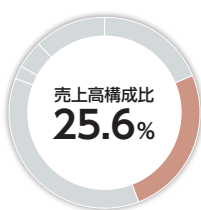
インフラ

上半期の概況



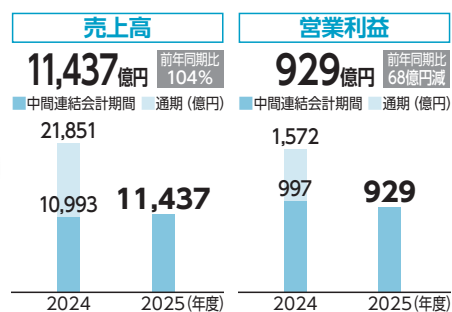
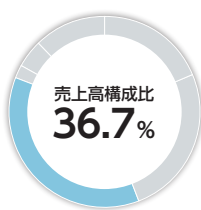
インダストリー・モビリティ

上半期の概況



ライフ

上半期の概況



SMR-300向け計装制御システム

当社は、米国Holtec社が開発中の小型原子炉「SMR-300*」向けの計装制御システムの設計契約を締結。計装制御システムは原子力発電所の安全運転を支える制御・監視システムで、当社は、本締結によりSMR-300の計装制御システムに関する設計を加速し、2030年に北米市場において市場投入を目指します。

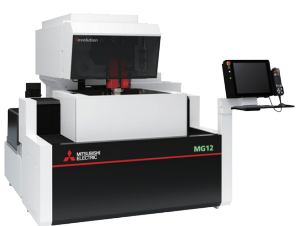


©Holtec International

*事故時に外部からの電源や冷却材の供給なしで炉心冷却が可能な、高い安全性と信頼性を兼ね備えた次世代型の小型原子炉

ワイヤ放電加工機「MGシリーズ」

製造業を取り巻く環境は昨今大きく変化しており、熟練作業者の減少や労働力不足への対応、脱炭素社会の実現に向けた取組みが日々重要性を増してきています。その中で、2025年7月より新たに発売したワイヤ放電加工機「MGシリーズ」は、放電加工機開発以来長年蓄積した技術をベースに、当社のAI技術「Maisart」など最先端の技術を搭載し、「誰でも簡単に高品位加工」「止まらない機械」「省エネ」といった3つの製品コンセプトの実現を通じて、お客様の抱える社会課題の解決に貢献してまいります。



三菱電機株式会社 株主通信2025

社会を支えるインフラの安定稼働やカーボンニュートラルを実現するとともに、日本・アジアの安全保障に貢献

社会システム事業

受注高は海外の交通事業の大口案件の減少などにより前年同期を下回りましたが、売上高は国内の交通事業や公共事業、海外向けUPS事業の増加などにより前年同期を上回りました。

エネルギーシステム事業

受注高は国内外の発電事業の増加により前年同期を上回り、売上高は国内外の電力流通事業の増加などにより前年同期を上回りました。

防衛・宇宙システム事業

受注高は防衛システム事業・宇宙システム事業の大口案件の増加により前年同期を上回り、売上高は防衛システム事業の大口案件の増加により前年同期を上回りました。

コアコンポーネントとデジタル技術で未来の“ものづくり”と“快適な移動”を支える

FAシステム事業

スマートフォン、AI関連の設備投資や工作機械関連需要の増加などにより、受注高・売上高ともに前年同期を上回りました。

自動車機器事業

中国における日系自動車メーカーの販売減少による影響や、北米向けカーマルチメディアの減少などにより、売上高は前年同期を下回りました。

あらゆる生活空間において、快適で安全・安心な環境を創造するソリューションを提供

ビルシステム事業

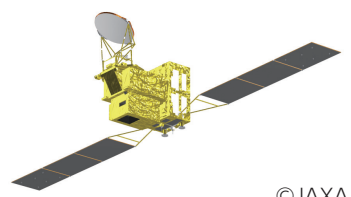
受注高は国内向けの増加などにより前年同期を上回り、売上高はアジア（除く中国）・国内向けの増加などにより前年同期を上回りました。

空調・家電事業

価格改善の効果に加え、欧州・北米・国内での家庭用・業務用空調機器の増加などにより、売上高は前年同期を上回りました。

温室効果ガス・水循環観測技術衛星「いぶきGW」

2025年6月29日にH-IIAロケットによって打ち上げられ、搭載されている「温室効果ガス観測センサ3型：TANSO-3」及び「高性能マイクロ波放射計3：AMSR3」による初観測データを確認しました。



©JAXA

いぶきGWの観測データは、今後、地球温暖化対策や気象予測、漁業など多方面への利活用が期待されます。

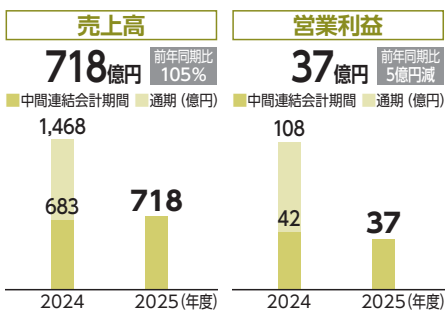
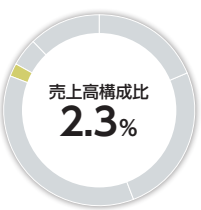
「Japan Mobility Show 2025」出展

三菱電機モビリティ株式会社は「Japan Mobility Show 2025」に出展しました。同社は「社会と共に変わる。社会を共につくる。」というコンセプトのもと、社会の変化に柔軟に適応し、多彩なパートナーと連携しながら、交通事故、地球環境への負荷、労働力不足等の社会課題の解決に向けた取組みをご紹介します。また、同社の高精度な機器（コンポーネント）を通じたデータの取得と活用による価値拡充の事例も展示しました。



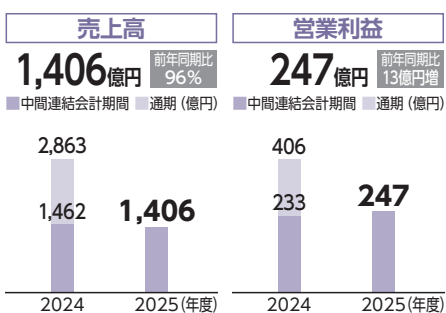
デジタルイノベーション

上半期の概況



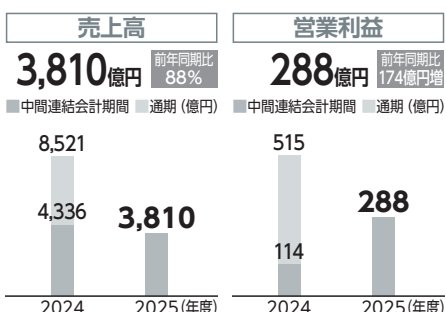
セミコンダクター・デバイス

上半期の概況



その他

上半期の概況



りんごの搾りかすを原料としたエレベーターの手すりカバー

りんごジュース製造の際に発生する、りんごの搾りかすを原料とした合成皮革を使用したエレベーターかご内の手すりカバーを開発しました。今回開発した手すりカバーは、植物由来のバイオマス素材として、りんごの搾りかすなどを原料にした合成皮革を採用した業界初の手すりカバーです。従来の合成皮革と比べて石油由来原料の使用を削減（りんごの搾りかすの場合25%削減）することができ省資源につながるほか、従来廃棄していたりんごの搾りかすをアップサイクルすることで、食品廃棄物の削減、CO₂削減に寄与します。



Nozomi Networks,Inc.完全子会社化

当社が持つOT*領域における強みと、Nozomiが持つ最先端セキュリティ技術の融合によりグローバルNo.1のOTセキュリティソリューションプロバイダーを目指します。



また、当社とNozomiの多種多様な顧客基盤からセキュアに得られるデータを活用し、Serendie関連事業をグローバルで飛躍させます。

*OT(Operational Technology):制御・運用技術

NW・ITインフラ、IT/OTセキュリティ及びAI活用ソリューションなどを提供し、お客様の成長と社会課題の解決に貢献

情報システム・サービス事業

製造DXソリューション事業、ITインフラ・セキュリティ事業などの増加により、受注高・売上高ともに前年同期を上回りました。

半導体の「進化」と「革新」で社会の変化を先導する

セミコンダクター・デバイス事業

受注高はパワー半導体の減少などにより前年同期を下回り、売上高は通信用光デバイス、電鉄・電力向けパワー半導体の増加はありましたが、産業、自動車向けパワー半導体の減少により前年同期を下回りました。

その他
売上高は物流の関係会社の持分法適用会社化に伴う減少などにより、前年同期を下回りました。

インド新工場にてルームエアコンの量産開始

需要増加が見込まれるインドの空調冷熱システム事業の拡大に向け、約267億円を投資し、空調機と空調機器用圧縮機の工場を建設。2025年10月よりルームエアコンの量産を開始しました。消費地生産を開始することで、今後の需要増加に対応した製品の安定供給を図ります。



SiCパワー半導体の生産体制強化に向け新工場棟を竣工

近年、脱炭素社会の実現に向けた世界的な省エネ志向が高まっており、パワー半導体市場の中長期的な成長が見込まれています。特にSiCパワー半導体は、電気自動車向けをはじめ、様々な応用分野において更なる市場の広がりが見込まれ、GX(Green Transformation)実現への貢献が期待されています。

当社は、この市場拡大を見据え、熊本県泗水地区にSiCウエハの大口径化(8インチ)に対応した新工場棟を建設し、2025年9月に竣工しました。今後も市況に合わせた生産能力の増強を実施し、高い生産効率の実現と更なる事業拡大を目指します。

